

## ニュージーランドの幼児教育（三）

マイケル・クーパー稿

松川由紀子訳

### Ⅲ プレイグループと保育センター

ニュージーランドの多くの子どもたちは、幼稚園かプレイセンターにおいて幼児教育を受けている。昨年（一九八二年）、何らかの幼児教育を受けた子どもたちのうち、七十七パーセントが幼稚園かプレイセンターに通っていた。残りの二十三パーセントはプレイグループと保育センターに通っていた。保育センターには、（幼稚園

協会に参加しない）個人的な幼稚園、（プレイセンター協会に参加しない）個人的なプレイセンター、保育所、小学校の幼児クラス、通信教育校の幼児クラス、YWC Aによってなされる移動幼児グループなど各種の事業が含まれている。

認可されたプレイセンターおよび幼稚園は、厳格な設備基準に従い、政府による認可を保持するようにしなければならない。この認可は、それ以外のいかなる資格も必要としない。これ以外の機関において、三名以上

の子どもたちが誰かの保育を受ける場合は、それが子どもたちの親類や親たちによる日々の保育でない限り、必ず、社会福祉省による保育センターとしての資格を得ていなければならない。保育センターは、すべての個人的な幼児教育機関ならびに保育機関を包含する。唯一の例外は、子どもたちの安全と福祉に責任をもって、子どもたちそれぞれの親がとどまるといふ幼児教育機関である。これらの規則は厳格なものである。

親が子どもとともにとどまるならば、何ら資格が要求されないという例外は、プレイグループの増加をもたらした。一九八二年には、七〇〇カ所近く存在していた。

### (1) プレイグループ

プレイグループの大きさはまちまちである。二、三の家庭が集まったものもあれば、三十もの家庭が集まったものもある。子どもたちと親たちがともに、どこか便利のよい場所に集まるのである。それぞれの家庭に集まるグループもあれば、地域のセンターや学校図書館、幼稚園

園などに集まるグループもある。

親たちはさまざまな目的のために集まる。子育てにおいて他の母親たちの援助の必要を感じている母親たちもいれば、たださびしくて仲間を欲する親たちもいる。また、子どもたちがいっしょに遊べる場所である幼稚園やプレイセンターに不満足である親たちもいるかもしれない。どんな理由で集まっても、またどこで集まりがもたれていても、子どもたちがいっしょに遊ぶことができること、また他の親たちのもとで遊ぶことができることは、子どもたちにとってよいことである。

プレイグループには何ら設備の基準がなく、多くは、ごく限られた設備を使用し、子どもたちが各自のおもちゃをもってきて、それらをプールしておいて全員が使用している。若干の金銭を集めて、親や子どもたちの飲食代にあてるグループも多い。諸活動を組織するために、なかにはグループのなかから指導者を選んでいたりもある。また、グループメンバーの合意に基づいて運営しているところもある。典型的なセッションは、一時間

から二時間半くらいである。

政府は、プレイグループを援助するために、毎年、七十五グループに若干の助成金を交附している。助成金は、次のとおりである。

●設備

五〇〇ドル、ただし一回だけ。(日本円で約九五、〇〇〇円)

●給与

一時間あたり、ひとり分、約六ドル。(約一、一〇〇円)

●運営費

一セッションにつき、約八ドル。(約一、五〇〇円) 援助を非常に必要とするグループのみ、政府より助成を受けている。助成されるグループは、ふつう、何ら政府の援助する幼児教育機関がない場所に設置されているものである。

多くのプレイグループでは、遊びのプログラムは組織されていない。金銭を調達することのできるグループで

は、プログラムを組織するために指導者を雇用することができるだろう。多くのプレイグループでは、自分たち自身で打ち解けた運営をしている。プレイグループは、教育省の助言サービスより何らかの指導、助言を得ている。

(2) 保育センター

保育センターには、個人的な幼稚園やプレイセンター、五歳未満の子どもたちを受けいれている少数の私立学校、少数のルドルフ・シュタイナーやモンテッソーリの幼児クラスなどが含まれている。保育所もまた保育センターとしての資格を得ていて、子どもたちに幼児教育をほどこしている。子どもたちのなかには、保育所と幼稚園あるいはプレイセンターに、同時に通っている者もいる。

〔訳注〕 ルドルフ・シュタイナー(Rudolf Steiner, 1861-1925)

は、人智学(Anthroposophy)の創始者として有名なドイツの哲学者で、一九一九年、シュツットガルトに私立ヴァルド

ルフ学校を設立した。この学校は、リズム運動やリズム感を重視した特色ある教育方法で、子どもたちの全面的な発達を企図した、自由な統一学校であった。現在、この種の学校、幼児教育機関がいくつかの国において設立されている。

これらの保育センターは、個人的に、あるいは地域組織によって所有され、運営されている。多くは、教会関係、あるいはYWCAや地域の委託による任意組織によって運営されている。運営のプログラムは、スタッフの幼児教育に対する個別の信念に依存している。保育センターとしての資格を得るためには、養成を受けた教師がいなければならぬことはない。よい性格の人を責任者にすれば、何ら他の要件は求められていない。

運営の資格は社会福祉省によって発行される。どの保育センターも社会福祉省の行政官による検閲を受けなければならない。

#### ●建物

子どもたちに安全で適切な建物の便宜がはからなければならない。十分な空間、暖房、照明、ならびに

トイレ、台所がなければならない。二十五名以上の子どもたちがいる場合には、プレイルームが二室なければならない。子どもひとりあたり、二十五平方フィート以上の室内空間、七十五平方フィート以上の戸外空間がなければならない。

#### ●設備

室内以外に十分かつ適切な遊びの設備がなければならない。何が「十分」あるいは「適切」であるかについては、規定されていない。子どもたちに十分な備品がなければならず、また応急戸棚もなければならない。

#### ●食物

子どもたちを一日に四時間以上保育しているところでは、二時間半を越えない間隔で食物が与えられなければならない。

#### ●スタッフ

スタッフの要件は、子どもたちの年齢や保育時間の長さによって異なっている。二歳以上の幼児三十五名

一、四時間以内の場合は、幼児八名につき大人一名、あるいは三十五名につき二名が要求されている。

四時間以上開かれている保育センターでは、幼児二十名につき大人二名の割合である。

### ●活動

適切な活動が子どもたちに用意されていないければならない。活動の種類は明記されていない。

若干の保育センターでは、特別な種類の教育プログラムを用いている。現在六カ所の保育センターでは、外国で養成を受けた教師によるモンテッソリー・プログラムが用いられている。少なくとも二カ所の保育センターでは、ルドルフ・シュタイナーの原理に基づくプログラムを用いている。

親は、ふつう、保育センターに子どもを通わせるために料金を支払う。保育料は、保護面の含まれるところでは一時間あたり一ドル(約一九〇円)から二ドル五十セントまでまちまちであるが、ふつうの幼児教育の費用と

しては、二、三時間のセッションで一ドルである。

これらのさまざまな幼児教育、保育機関について、一般化することはむづかしい。なかには、認可された幼稚園やプレイセンターが十分でなく、公益に合わないが故に設置されたところもある。また、幼稚園やプレイセンターでなされているプログラムを親たちが好まないが故に設置されたところもある。

親たちが幼稚園やプレイセンターに満足できない場合、あるいは幼稚園やプレイセンターが利用できない地域、あるいは特別な地域で異なったやり方を要するところにおいては、プレイグループや保育センターは、多くの子どもたちに貴重な幼児教育の場を与えている。

(おわり)

### 既刊号正誤

四月号「サギソウの花」の執筆者「今井百合子」を「今井百里江子」と訂正します。同稿18・19ページ「森なほ」を「木林なほ」と訂正します。